

特集

五感に響く水族館

日本は世界有数の水族館大国である。
年間来館者数は3,000万人を超え、
国民の4人に1人が毎年水族館を訪れている。

水族館は、レクリエーション施設としてとても人気が高いが、
娯楽に加えて、調査・研究、種の保存、動物福祉、環境教育、
という複合的な役割を担う施設である。

近年では、実際の水辺環境をそのまま再現した水槽展示や、
自然に近い飼育環境下で生き生きと行動する生きものたちと
直接ふれあうことができる水族館が増えてきている。

水流の音、やわらかな光、生命の躍動——
水族館には、訪れる人の五感に働きかける空間体験がある。

様々な趣向が凝らされた空間では、海獣に餌を与えたり、
普段見ることのできない深海魚を見られたり、
地域の固有種や希少種をクイズ形式で学んだり、
水槽を泳ぐ魚たちを眺めながら、食事を堪能することもできる。

水産資源の持続可能性や生物多様性が脅かされている今、
老若男女を問わず、水域環境の変化を身近に感じ、
学ぶことができる水族館の存在は、
ますます大切になってきているのではないだろうか。

本号では、水族館ならではの“伝える技術”や、
地域社会と連携した教育施設としての
取り組みなどを解説することで、
水族館が持つ社会的価値の進化をひもとく。

- ①のとじま水族館／松田明浩
②のとじま水族館／松田明浩
③マクセル アクアパーク品川／松元涼子
④沖縄美ら海水族館／川上健
⑤幼魚水族館／永吉洋之
⑥幼魚水族館／永吉洋之

